

平成30年度 市長と語ろう！ふれあい懇談会 八幡会場記録

開催日時：平成30年11月16日（金）19時30分～21時27分

開催場所：八幡防災センター研修室

出席者：市長・教育長・市長公室長・総務部長・建設部長・総務課長・八幡振興統括

出席者数：75人

19：30開会

八幡振興統括による出席者紹介および今回の懇談会テーマ・趣旨を説明

▼日置市長（あいさつ・市政報告）

3日続きの東京出張から帰ってきたところである。先の2日間は来年度の予算編成に向けて国への要望活動を行ってきた。また、本日は、八幡町に縁のある、さくらももこ先生が、8月15日に53歳で逝去されたことから「さくらももこさんありがとうの会」が東京都青山葬儀所で執り行われ出席した。祭壇には遺影が無く、代わりにさくら先生が手掛けられたイラストがたくさん飾られるなど、生前のさくら先生らしく明るくユニークな会であった。葬儀所のある青山も、さくら先生も八幡町に縁があるため報告させていただいた。

現在、郡上市議会議員の皆さんなどと国や県などへ要望活動を行っており、先日は、濃飛横断自動車道の和良～八幡間の早期開通、国道156号線の郡上大橋の架け替え等を要望した。また、明宝小川トンネルの第2期工事が9月の県議会で議決され、20億8千万円余りの費用をかけ、遅くとも平成34年までにはおおむね工事が完了する見込みである。

※災害、主要事業、財政、観光立市については、ふれあい懇談会美並会場と同様の内容。

<テーマ 防災について>

▼総務部長

全国各地で災害が発生し、郡上市においても7月豪雨、9月の台風など大きな被害があった。その際には、消防団・自治会・防災士の皆様の協力をいただいたことについてお礼申し上げます。おかげさまで今回の災害による人的被害は出なかった。

※防災についての概要は資料により説明

◆発言者①

小那比地区の豪雨については大変な災害であった。その際には、市関係者の現場視察や被災者宅への見舞い、そして、復旧に向けての様々な支援をいただいたことに感謝申し上げます。

7月豪雨については、今までに経験したことがない程の激しい雨が降り、住民は不安を感じながら一夜を過ごした。一夜明けると、各所で床上浸水や土砂流入など甚大な被害が発生していた。地元の土木業者、消防団員、多くのボランティアにより迅速に復旧作業が開始され、幸いにも人的被害が出なかったことが何よりであった。これは、雨の状況により自主避難や比較的安全な部屋への移動したことなど、身の安全を確保する的確な判断がなされたか

らだと考える。9月の台風21号では、倒木により電線が切断され停電が長く続いた。風呂が使えないことが不便であったが、市内の温泉が無料開放され大変ありがたかった。また、小那比公民館をいち早く避難所として開設していただいたが、避難所の常備品が毛布のみであり、他の物資についても常備する必要があると考える。人命を脅かすような自然災害はいつ発生するかわからないため、危機意識を高めることや緊急避難体制の構築が必要だと考える。八幡町内では自治会と公民館がタイアップし、災害避難マニュアルを作成している地区があると聞いている。そうした仕組みや体制づくりに、市として積極的に取り組んでいただきたい。地域の状況は住民が一番よく知っているので、市の指導をいただきながら一緒になって「命を守る」体制づくりに取り組みたい。

▼市長

本当に大変な被害であった。訪問した家では、家が浸水し、こたつの上で一夜を過ごしたことなどお聞きし、申し訳なかったと感じている。

今回の豪雨では、小那比地区や和良町に、線状降水帯がかかり記録的な大雨が降った。河川についても气象台から記録的短時間大雨情報が発表された時には既に増水していた。これまで大雨時の水害については、大きな川の水害防除を頭においていたが、今回のように上流部の小河川が流木などで堰き止められ、水があふれ出ることへの対策も必要だと考える。特に、切捨て間伐により放置された木材が、河川に流入した影響もみられるため、災害対策を考慮しながら山づくりを行う必要があると考える。

今回は、高鷲のひるがの地区などで1,000mmを超える大雨が降ったが、雨が降ったり止んだりを繰り返したため、河川の流下能力を超えることなく水が下流に押し流されて、大きな被害に至らなかったと考える。小那比で起こった災害は、普段は水量の少ない谷川から土砂や木材が流出して起きた被害であり、これらについての対策も考えていく必要がある。ソフト面の対策は、地区内の危険箇所や安全箇所を意識し、災害のタイプに応じた避難の仕方を自主防災会や地区会単位で考えていただきたい。現在、八幡町のほぼ半分の地区会で自主防災会避難マニュアルを作成していると聞いており、小那比地区についても、地域内で相談し早急に作成していただきたい。高齢者が多く、避難行動を計画することは大変だと思うがどうかお願いしたい。

避難所の備蓄品については、きめ細かく全ての避難所に手配することは難しいが、設営時には必要に応じて配分する。また、地区会単位で基本的な防災用具を準備するための補助金などがあるので活用していただきたい。

◆発言者②

避難所にはテレビや広報無線がなく情報が入らない。また、図書室が併設されている公民館もあるが、今回の避難所開設時には利用できなかった。避難時は、一時的に解放するなど対応いただきたい。

避難所の設営について、乳幼児や妊婦等にも配慮した設営をお願いしたい。特に避難が長期間に及ぶ場合は、携帯電話等の非常用電源の準備も必要でありトイレなどの問題もある。また、避難訓練の在り方も今後考えていただきたい。

▼市長

避難対策についていろいろな方面から課題を聞いているが、一番お聞きすることは高齢者などが情報を得られないことである。若者はスマホ等で情報を得ることができるが、高齢者は難しく、誰でも情報を入手できる手段を講じなければならないと考える。また、避難時に福祉面で配慮が必要な方については、福祉避難所と連携を行う事や、乳幼児・妊婦への対応、避難所でのプライバシー保護など、避難場所や避難先での対応を充実させていきたい。今回の台風21号の際には、避難時に当面必要と思われる物品を持参して避難することを周知した。台風接近時など避難前に時間がある場合は、自身でもある程度の準備をしていただきたい。

<テーマ 持続可能な地域づくりについて>

◆発言者③

学生時代に郡上八幡に滞在し、現在は移住してデザインの仕事をしている。こちらにきてから郡上おどりが好きになり、有志の方と「郡上おどり皆勤賞」という企画を立ち上げて今年で9年目を迎えた。

企画の目的は3つあり、1つは「全日程参加者に記念品を贈ること」。天候や体調を考えると全日程を参加するというは大変なことであるが、郡上おどりを愛する方々は毎年熱心に足を運んでくださる。この企画をきっかけに更に郡上おどりが盛り上がればよいと考えている。2つ目は「郡上おどりの楽しみのひとつとなること」。全日程を参加できなくても参加者全員に記念品を贈呈しており、おどり参加者やボランティアスタッフとの交流の場として新たな輪が広がると思う。3つ目は「子どもたちが郡上おどりに参加するきっかけとなること」。地元の文化を受け継いでいく子どもたちが、郡上おどりに親しんでもらう機会になることを切に願っている。

企画をスタートしたときは100人足らずの参加者であったが、今は認知度もあがり市内外から多数の申し込みをいただいている。その反面、運営面での課題があり、今後も企画を継続していくために指導、助言をいただけると嬉しく思う。

▼市長

皆勤賞というイベントを企画・実施いただくことは、踊りに親しむという点で効果があると感じる。今年の夏は、私も表彰状の授与に立ち会ったが、参加者の中には、9年連続の皆勤賞という方もみえた。また、市外からの参加者が多い事も嬉しく思った。運営に関しては、全日程を一人で行くことは到底不可能であり、サポーター等と協力して行っていく必要があると考える。「おどり皆勤賞」の受付場所についても、おどり会場が毎晩変わることもあり、運営上の苦労もあると思うが、この企画を大いにPRし継続していただきたい。また、今年は、市においても親子で郡上おどり・白鳥おどりに親しむことを目的に、同じような企画を実施したが、参加者が受付場所など混同され迷惑をかけたことがあったのではないかと。市の親子おどり企画では、何回かの参加で景品が贈られた。今後は「親子おどり参加者」が初級者コース、「郡上おどり皆勤賞参加者」を上級者コースとするなど棲み分けや、事前のPR、実施体制の調整等、双方が研究して進めていけたらと考える。

◆発言者④

川合東部地域づくり協議会が、H28年から3年間取り組んでいる「山村活性化支援交付金事業」の今後の展望についてお話ししたい。

川合地域の課題として、高齢化に伴う田畑の耕作放棄地の拡大、獣害による生産意欲の低下、郡上八幡土里夢の地元食材の不足という3点が挙げられる。そこで、これらの課題を解消するため「ほうば・えごま・ふき」の栽培を行い活用する取り組みに「山村活性化支援交付金事業」を活用している。そこで、地元加工業者と生産者をつなげる組織の立ち上げ、耕作放棄地等の活用、農産物の加工販売などを行った。3年間で収穫量の増加、地元食材確保など地域の活性化に成果があった。しかし、今後、補助金が終了すると、事業は縮小に向かいやすく、この取り組みを継続していくために、個の取り組みとならないように市に強いリーダーシップを取っていただくことや、優良品種のブランド化、収穫量の増加を図るための専門的なアドバイスを市や県にご指導いただくことをお願いしたい。また、3年間で自立することは難しく、5年10年を見越した活動ができるような支援をいただきたい。

▼市長

「山村活性化支援交付金事業」に取り組んでいただき、苦労も多いと思われるが一定の成果が表れており感謝申し上げます。この事業には、3年間で500万円以上の補助金を支出しており、補助金としてはある程度の区切りを設けなければならないと考える。必要な支援や技術的なアドバイスは行うが、行政にはリーダーシップではなく、サポートを求めるような存在になっていただけるようお願いしたい。

◆発言者⑤

地元の地区会や地域づくり協議会に携わっている。その活動の中で地場産業の後継者養成も地域づくりに繋がると考えている。最近、全国的に職人不足を実感しているが、郡上市には様々な職人がおり、郡上が発祥という産業もあり、その品質・技術を高め継承していきたいと考える。そこで、スクリーン印刷や食品サンプル等の職人養成所として、空いた施設を利用できないだろうか。この養成所の卒業生には地元での起業や、優先的に就職していただくこと等により地域も活性化すると考える。また、職人村のような施設は、話題性もあると思われるので、ぜひ検討していただきたい。

▼市長

郡上の様々な技術を継承していくことは大切な事だと考える。先日、他県のバット工場へ視察に行った際に、最後の仕上げとして、バットにスクリーン印刷で印刷していた。このような立体的な製品にも印刷できる技術の根幹が、郡上発祥であることは大変誇らしいと感じた。

先ほどの話は、ものづくりの技術をどのように継承していくかという提案だと思われる。市では、郡上の資源を活用して相棒となる人材を都会から招き、スモールビジネスを行う仕組みとして「郡上カンパニー」という事業を行っており活用していただきたい。また、ものづくりの技術を学ぶ場として、市内の空き家等を活用したり、郡上市産業プラザなどで夜間の講座を開くことも考えられるが、どのような内容で行っていくのかよく検討していかな

ければならない。新潟県三条市では、閉校した小学校を活用した「ものづくり学校」を行い、各部屋をレンタルスペースとして企業に貸し出しているそうだ。

今回の提言は、技術の伝承・継承、後継者育成等に必要なものであり、今後よく検討したいと考える。

「その他」について

◆発言者⑥

旧越前屋を活用して様々な活動を行った。今年の夏前に改修が行われると聞いたが、市街地のまちづくりの拠点となるような使い方について検討いただきたい。

▼市長

市で土地を購入し、建物は寄附していただいた。できるだけ町屋として復元する形で補修し、様々な機能をもった施設として活用していきたい。具体的な機能は、資料に4点記載している（①登録有形文化財の建物内部を見学していただき当時の暮らしぶりや魅力を伝える②地域資源等を活用したチャレンジショップ等を行い起業へのチャレンジを後押しする③給食スペースやトイレなど各種おもてなしにつながるサービスを提供する④集会所機能やサロン、まちづくり活動の事務所として地域づくりやコミュニティの醸成を支援する）。ぜひ、まちづくりを推進する方々の活動の場としていただきたい。

◆発言者⑦

災害時に痛感したが、相生は大和～美並線で災害が起こると孤立化しやすい。主要地方道として必要な道路だと考えるが、災害時の対応も含めて、今後の西側県道整備の展望をお聞きしたい。

▼市長

7月豪雨の際には、早い段階で高速道路が通行止めになり復旧も国道より遅かった。そして、通行止め期間も荘川～清見間の工事の影響で長く続いた。

国道についても美濃市の土砂災害で通行止めとなり、県管理道路においても白鳥の歩岐島や高鷲の鮎立で危険箇所があった。このように今回の災害では、高速、国道の両方が通行止めとなった。大和～美並線は、高速等の整備により重要性が薄れたように感じるかもしれないが、重要な道路であると考えており、できるだけ早期に整備を進めていきたい。また、この道路については、現在、山腹が崩れるなどの被害があり不便をおかけしているが、土木事務所によると年度内には片側交互通行ができるようにしたいとのことである。生活に大切な道路であり、安全な道づくりに努めていくと考えており、山と川に挟まれて地形が悪く危険な箇所もあるが、できるだけ安全に利用できるよう対応していきたいと考える。

▼閉会あいさつ（石田教育長）

お疲れのところ、大勢の方に集まっていただき感謝申し上げます。小那比の災害についての状況報告や、まちづくりについての提言をいただきありがたく感じる。

今、子どもたちは、地域のために自分たちができることは何かと考えている。石原さんの提言などは、子どもたちに話していただければ協力できると考える。以前、「まちづくりフェスティバル」から出たアイデアによって実現された「浴衣デー」や「中高生鮎釣り大会」のように、街を活性化させるために自分たちの力を生かしたいと考えている。

現在の教育は、子どもたちに生きる力を身に付けさせようとしており、ものづくりの面白さなどもぜひ体験させたい。その時に重要なことは自主性や主体性であり、先日聞いた話によると、高校2年の女子生徒が自分から明宝のジビエ工房へ習いに行っているそうだ。このように子どもたちが自分で考え、自分のやりたいことに向かって進んでいく力が身に付けられるように、皆様方の支援をお願いしたい。

21：27閉会